

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人自然環境観察会

事業名	都市近郊に「緑のオアシス」を造成保全する手法を開発する
助成枠の種類	特定分野事業ネーミング枠 (株)富士薬品ドラッグセイムス 環境保全支援事業)
1. 事業の目的	毎年自然やみどりが増えている都市近郊の自然環境を回復するために農地や庭、空き地の一角に昆虫や鳥などが棲める『緑のオアシス』をつくり自然豊かな地域づくりや生物多様性の保全に貢献する。その成果を展示会および印刷物、観察会、環境学習会などで公表し普及に努める。
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	<p>① 都市近郊は宅地化が進み農地や平地林は年々減少し、多様な自然や緑地が失われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上尾、桶川、幸手、久喜などの休耕田、空き地、庭の一角に多様な植物を植栽した『緑のオアシス』を創成し、保全・継続に取り組む。 <p>② 地域内の生物相は単純化し、生活の質—QOLの指標となる緑地や生物多様性の保全手法の確立が求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『緑のオアシス』内に（アゲハ類、鳥類など）の餌植物、蜜源植物、秋の七草を植栽し、土着の生き物、昆虫類や鳥類が集まるように保全する。 ・『緑のオアシス』には、通行人や近所の子どもたちを含む参観者に鑑賞してもらう。 ・成果は市の広報や NPO 広報誌に掲載する。またオンラインで子供向けの解説や標本講習会を公開するなど、多くの人々に共有していただくように工夫する。
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	<p>(1) 『緑のオアシス』の造成と保全に関する調査</p> <p>①実施開始までの準備：6月以降に『緑のオアシス』を造成し、7月までにチョウ類の餌植物、蜜源花粉植物を植栽し、管理・除草を行った。</p> <p>②動植物の発生数調査：『緑のオアシス』の動植物の発生消長を把握するために7～11月に月2回調査し生物相を解明した。昆虫の標本を作った。</p> <p>(2) 地域の『緑のオアシス』の保全と生物相に関する調査</p> <p>①趣旨：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態園で地域の生息相の調査を7～11月に月2回行った。 ・地域の生物相のバックグラウンド（賦存量）の調査。2021年度アカタテハがカラムシにやや多発した。・・・詳細は別紙-1 ・10月、所沢、入間、越生などの丘陵地の昆虫相を調査した。 ・イナゴの生息相調査の一環として県西丘陵地で調査したところ、

所沢と入間の狭山丘陵地にハネイナゴが優占していたことが分かった。 詳細は別紙-2

・12~1月はターゲット種の越冬を確保するために、緑のオアシスに越冬場所（ビートルバンク）として落ち葉と隠れ場を温存した。

. 詳細は別紙-3

②実施：12~2月に成績をまとめ報告書を作成し広報誌を発行した。

（3）野外観察と体験学習、成果の公表

①環境教育：3月、埼玉県県民活動総合センターでオンライン観察会を行った。参加者は15名。 別紙-1

②体験学習、オンライン子供向けの標本作製、昆虫観察会、バードウォッチング、田植え、イナゴ採集会を開催した。参加者毎回10名（うち大人5人）。 別紙-1

③環境学習や体験学習に必要な展示や成績の取りまとめの参考にするために先進地の長野県昆虫資料館及び道の駅展示館を訪問した。 別紙4

○事業のスケジュール

時期	調査内容
6月	緑のオアシスの造成・準備、
7月	緑のオアシスの管理、生態園調査、田植え
8月	生態園の調査、イナゴの調査・採集会
9月	生態園と緑のオアシスの生物相調査
10月	生態園と緑のオアシスの生物相調査 丘陵地の昆虫相調査、長野県青木村昆虫館視察
11月	生態園と緑のオアシスの生物相調査 緑のオアシスで観察会と稲収穫祭
12月	生態園と緑のオアシスの生物相調査
1月	緑のオアシスの管理と生物相調査
2月	調査結果のまとめと広報活動、 オンライン観察会・標本作り準備（3月実施）。

○ 広報実績について：

- ・ 広報あげおへの情報提供 . . . 2021年12月号「冬の自然探検」
- ・ 研究機関誌への公表（アグロ虫の会）2021年11月25日「都市と農村の生き物観察」
- ・ 口頭発表（於さいたま市、埼玉昆虫談話会）2021年10月23日「緑のオアシスづくり」
- ・ オンライン・都市と農村の昆虫相（関東昆虫学研究会への公表）2022年2月19日
- ・ 室内講習会（都市と農村の緑のオアシスの多様性、NPO 自然観

	<p>察大学) 2022 年 2 月 20 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌-12 緑のオアシス 都市と田園のチョウ類-1. pp. 10. 2022 年 2 月 10 日発行. ・広報誌-15 緑のオアシス 大発生する昆虫類-3。pp. 43. 2022 年 3 月 10 日発行
4. 事業実施により達成した成果の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と農村に設置した『緑のオアシス』に多数の植物、昆虫、鳥類が温存されるようになった(別紙-1)。 ・幸手と上尾中分の景観地に『緑のオアシス』を新規設置し多様な生き物の生息を確認した(別紙-2, 3)。
5. 費用面での工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のオアシスの保全と調査に交通費を支援していただいたが、各地のオアシスの巡回や調査には自己資金(自家用車)を活用し運用した。 ・会の役員会や会員の連絡などに e-mail やオンラインを活用し運用した。
6. 地域社会への還元について	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のオアシスの造成と生物相保全について近隣住民に啓発し参加していただいた(別紙-1, 2, 3) ・市の広報、研究会、講習会、こども自然観察会に積極的に参加し事業成果の還元配慮した(別紙-1, 2, 3)。
7. 来年度以降どのように事業を継続し発展させていくか	<p>県内の都市(住宅街)、農村(休閑地)、森林、あぜ道などの空き地の一角に、生活の質を高め、有用な生き物が集まる『緑のオアシス』の造成を地域に普及していく。『緑のオアシス』の広報や観察会・標本作りなどの環境学習は対面やオンラインで積極的に推進していく。</p>